

## 作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部発達教育学科	玉城 要	2024年5月1日

### 【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

#### ◆前期

初級中国語 1-1 2 学部 4 学科 4 クラス  
初級中国語 2-1 2 学部 4 学科 4 クラス  
中級中国語 1 2 学部 4 学科 4 クラス  
基礎ゼミナール 1c 1 学部 2 学科 2 クラス  
日本語表現法 1(再履修クラス) 2 学部 4 学科 4 クラス  
文章表現法(前期クラス) 1 学部 2 学科 2 クラス  
漢字・漢語と社会 1 学部 1 学科 1 クラス  
漢文学概論 A 1 学部 1 学科 1 クラス  
専門演習 A/Cb 1 学部 2 学科 4 クラス  
卒論指導演習 1 1 学部 2 学科 2 クラス

#### ◆後期

初級中国語 1-2 2 学部 4 学科 4 クラス  
初級中国語 2-2 2 学部 4 学科 4 クラス  
中級中国語 2 2 学部 4 学科 4 クラス  
キャリアデザイン 1 1 学部 2 学科 2 クラス  
論理・表現入門 2 学部 4 学科 4 クラス  
日本語表現法 2(旧カリキュラム) 2 学部 4 学科 4 クラス  
文章表現法(後期クラス) 1 学部 2 学科 2 クラス  
異文化関係論 1 学部 1 学科 1 クラス  
漢字・漢語と文化 1 学部 1 学科 1 クラス  
漢文学概論 B 1 学部 1 学科 1 クラス  
卒論指導演習 2 1 学部 2 学科 2 クラス  
卒業論文

※その他、他大学(文教大学教育学部)で前期 2 科目(漢文学演習 2・漢文学概論)、後期 1 科目(漢文学講読)を担当。

「大学コンソーシアムとちぎ」に、上記科目の中から 7 科目を提供。

### 【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

私にとって「学ぶ」と「生きる」は同義である。

生きている以上、時間は確実に過ぎていく。そしていつか終わりが来る。

少なくとも今生においては。

だから、自分の限られた時間(命)を自覚的により良く過ごしたい。

そして、学生が「自分事としての学習」を自覚し、自分の時間(命)をより良く過ごす意義に気がつくよう、関わっていきたい。

より良く学ぶ者は、より良く生きる者となり得る。

#### 【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

【責務】に記した担当授業科目のうち、「卒論指導演習1」「卒論指導演習2」「卒業論文」を除く、すべての授業を「ノマドスタディ形式(自称)」で実施している。

学生に対しては次のように、授業実施の方法と、その方法を採用する理由を示している。

---

この授業は、教員(玉城)が教室にいるものの教員が「教える」のではなく  
受講生のみなさんが WebClass 上の各種資料を用いて好き勝手に学習するという  
「ノマドスタディ」とでも言うべき授業を実施します。

※ノマド:nomad(英語)遊牧民、転じて放浪者の意

「好き勝手に」とは、「自主的に」「主体的に」という意味です。

受講生のみなさんは「自分の学習」を「自分で」作り上げてください。

「ノマドスタディ」って何だよ? 大した話ではありません。

簡単に言えば、授業者(玉城)と受講者(以下、「学生」とする)の活動内容を分けただけです。その活動内容とは次のア～イの三つです。

- ・ ア:授業者は、時間割上の授業時間中にノートパソコンを携帯して教室に常駐し、インターネットへの接続を維持する。
- ・ イ:学生は、インターネットに接続し、WebClass 上の資料に基づき学習を進め、指定された期限までに「課題」を提出する。
- ・ ウ:上のア、イの活動を以って、一回の授業における学習は「完了」とする。

授業の「構造・特徴」について補足説明します。

・教室で授業をしているけれど、WebClass 上の教材を用いる。

・対面式授業の同時双方向性は担保されている。

※その場(教室)での質問にも、メールでの質問にも即時対応する。

・教員の talk&chalk という一方的な一斉授業にはならない。

・学生が個々のペースで学習できる。

・学生は指定された期間内に Web を使って課題提出する。

・学生は仮に時間割上の時間内に課題提出ができなくても、指定された期日までに課題提出をすれば、それをもって「学習完了」とする。

・遠隔授業受講希望者にも対応している。

・仮に何らかの緊急事態により全面遠隔授業に切り替えられた際もスムーズに移行できる。

評価基準は以下のとおりである。

秀：毎回の授業時に示される内容確認課題をすべて期限内に提出し、その解答が正確でほぼ不備がなく、かつ自身の見解や、調べたことがらなどが追記されている場合。

優：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に8割以上提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。

良：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に7割以上8割未満で提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。

可：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に6割以上7割未満提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。

不可：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に4割以上6割未満の提出しかされていない場合。

無資格：上記、いずれにも該当しない場合。

内容による評価よりも、行動を重視した評価である。

上記評価基準と相互補完するのが「ルーブリック」の評価項目である。

評価項目は4つある。以下、それぞれの評価項目と、「優秀」「未達」の場合について記す。

①自主性・計画性・「自分事」の意識を持って行動しているか。

優秀：毎回の授業時に示される内容確認課題をすべて（～8割以上）期限内に提出している。

未達：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に4割以上6割未満の提出しかされていない。

②論理的思考に基づく、読み取る力、表現（再現）する力が備わっているか。

優秀：授業資料の内容、課題の指示内容を正確に読み取り、それに基づく「解答・回答」が正確で不備がない。

未達：授業資料の内容、課題の指示内容を読み取れず、反射的に「解答・回答」している。

③想像・創造・発展を意識して行動しているか。

優秀：授業資料の内容、課題の指示内容を越えて調査考察したことがらや、自身の見解を、課題の「解答・回答」に表現している頻度が高い。

未達：授業資料の内容、課題の指示内容を読み取らない。

④倫理性を意識して課題解決・達成に結びつく行動をしているか。

優秀：※レポート、調査考察型の課題の場合。引用・参照元などを正確に明示している。

未達：※レポート、調査考察型の課題の場合。ただのコピー・盗作

【成果】（その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど）

コロナ禍以降（正確には2021年度4月以降）、この授業形式（ノマドスタディ形式）に変えた。

○コロナ禍以前に、教室における対面授業で使用していた資料は、すべてPowerPointで作成し直した。そ

の際、スライド資料の説明をできるだけ「語りかけるようなことば」で記述し、特殊な用語、引用文、図表を除けば、耳で聞いても分かるような資料作りを心掛けた。

これにより、従来の教室における、いわば「力技」「教えたつもり」で行っていた授業と比べ、説明の仕方の不備が是正されると同時に、一つの授業回で伝達できる情報量が格段に増えた。

○教室における、「静穏な環境の維持」という、本質的とは思えない営為に気を取られる必要がなくなった。

一方、極めて少数ではあるものの、時間割上の授業時間に教室で自ら学ぶやり方を選ぶ学生とは、対面授業方法ではあり得ない個別・具体的な、そして時間をかけた対話が成立している。

○課題の提出状況、その記述内容・回答内容も、対面授業を実施していた頃より良くなっている。

「自分のペースで学習できるのがありがたい。」

「メールでもすぐに対応してもらえると、何かあったら教室に行けば確実に会えるという安心感がある。」

学生からの授業評価の一部である。

#### 【目標】(今後どうするか)

「より良く学ぶ者は、より良く生きる者となり得る。」

このことばが、真に腹落ちすべく、自らが学び続ける。

活到老、学到老。